

柳生の宮座行事

奈良市柳生町にある柳生八坂神社で行われる伝統行事です。柳生八坂神社宮司の石田さんと禰宜の荻田さんにお話を伺いました。

奈良市 柳生八坂神社

江戸時代以前から伝わる 神事芸能

柳生町(上)と柳生下町(下)の2つの地域では、柳生八坂神社を氏神とし、毎年10月の例大祭で神事芸能を奉納しています。

江戸中期には神事芸能を行った記録があり、地元の人たちにより脈々と受け継がれてきたことが分かります。

氏神への奉納

例大祭の朝は神事を主宰する家である頭屋の家に集まります。紋付羽織袴から素襖に着替え、祝詞をあげ、頭屋の家に祀られている氏神の分霊に相撲の舞、籠の舞、影向の舞を奉納します。食事などを済ませた後、庭に順番に並び、右回りに3回、円を描きます。一行には宮司も加わり、「ピー、ドン」と、笛と太鼓を奏でながら柳生八坂神社へとお渡りをします。



御神体である「御神箱」

御幣と御神体である楽器と装束を入れる「御神箱」もそのあとに続きます。到着後、舞台で相撲の舞、籠の舞、影向の舞を奉納します。2人1組で舞う相撲の舞は、びつ

たりと息の合った2人の声や動作、籠の舞は竹で作られた楽器・ピンザサラの音色、影向の舞は扇子を使った舞と詞章が特徴です。一つ一つの動作を行う際には笛と太鼓が鳴らされ、例大祭当日、柳生八坂神社の境内は荘厳な雰囲気になります。

お渡り前の宴では、謡のことを「肴」と呼び、酒も出され、皆がにぎやかに謡を謡います。酒に酔う者もいますが、いざ舞台上になると気持ち引き締まり、皆真剣な表情で舞を奉納します。

神事芸能への強い気持ち

10年程前までは、柳生の宮座は柳生上・下の氏子の年長者各12人(二十二人衆)と呼ぶ、両地域合わせて24人で構成されており、役割を1年ずつ交替し例大祭を行っていました。

しかし、現在は、担い手が減少し、柳生上・下の8人でこの伝統を守っています。

「代々受け継がれてきた伝統を絶やさずに、次の世代に継承していかなければならぬ」との思いから、継承者を増やすため、地域の人へ広く声をかけています。



石田さん、荻田さん

柳生の宮座行事

10月17日

所 奈良市柳生町363



無形民俗文化財については、県文化財保存課 ☎0742-27-8124 FAX0742-27-5386